

秋田の土地改良



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

みどり
水土里ネット秋田

目次	本会創立50周年記念式典を開催	2
	平成20年度土地改良関係団体役員講習会	7
	平成20年度21創造運動全国セミナー	9
	平成21年度農業農村整備事業予算概算要求の重点事項	10
	平成20年度秋田県農業集落排水連絡協議会研修会が開催される	13
	技術力向上に向けての取り組み(業務成果発表会・内部研修)	14
	各種研修会の開催(報告)・連合会日誌	15
	水土里ネット秋田の動向・会員だより	16
	農業農村整備フェア	17
	秋の叙勲(土地改良事業関係)	18
支部からの水土里通信(由利支部)	19	
インフォメーション	20	

◆発行所/秋田県土地改良事業団体連合会 〒010-0967 秋田市高陽幸町3番37号
TEL .018-888-2750(代) FAX .018-888-2834 <http://homepage2.nifty.com/akidoren/>



「厳冬の芹摘み」美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品

本会創立50周年記念式典を開催

創立50周年と全国土地改良大会の開催を新たな出発点に

11月11日(火)、本会の「創立50周年記念式典・祝賀会」が秋田市（秋田キャッスルホテル）で開催された。

記念式典には、佐藤文一副知事をはじめ、森多可志東北農政局次長、大野忠右エ門県会議長、新井安廣全国水土里ネット専務理事など多数の来賓を迎え、本会会員や本会OB、関係者など約430名が出席。高畑会長が半世紀の農業情勢を振り返りながら、これからの本会の役割に触れ、「この度の創立50周年と全国土地改良大会の開催を新たな出発点とし、『水』『土』『里』豊かな秋田の実現を目指し、会員並びに関係機関との連携を図りながら、更なる努力をして行きたい」とあいさつした。（挨拶要旨を別掲）

佐藤副知事などの来賓祝辞に続いて表彰状並びに感謝状贈呈が行われ、土地改良功労表彰（知

事表彰として個人3、団体2）や土地改良事業功績者表彰（本会会長表彰として8個人）、美しく豊かな農村づくり写真コンクールなどの表彰が行われたほか、創立50周年を記念して農業農村整備事業の推進と発展及び本会の発展に貢献した183の個人、団体に感謝状が贈られた。

また、記念講演として環境教育NPO法人「くすの木自然館」専務理事の浜本奈鼓さんを講師に迎え、「未来を支える底力 ～集落力～」の講演が行われた。浜本さんは、環境教育や都市づくり、農村環境、国際理解、食農教育に関する実践活動を行っており、農林水産省や環境省、鹿児島県の各種審議委員会の委員を務めている。講演では、自らが実践している環境教育や全国各地の事例を紹介しながら、①環境教育とは命の記憶を継いでいくこと、②緑豊かな農業農村



● あいさつ

秋田県土地改良事業団体連合会会長 高畑 進 氏



● 記念講演

環境教育NPO法人「くすの木自然館」専務理事 浜本奈鼓 さん



● 表彰状並びに感謝状 贈呈

秋田県土地功労表彰
秋田県土地改良事業功績者表彰
写真コンクール表彰
特別表彰（感謝状）

や地域資源を子どもたちに引き継いでいくことが重要になってくるなど、時折ユーモアを交えながら、農地・水・環境保全向上対策など新たな施策を活用しながら地域を元気にするためには「集落力」がポイントであると話し、これからの地域振興の参考になるメッセージを頂いたように感じました。

記念式典に引き続き、同会場で祝賀会が開催され、懐かしい顔ぶれや昔談義に話しがはずみ、和やかなムードで祝宴が行われた。

なお、土地改良事業関係の被表彰者及び感謝状贈呈の内訳は次のとおり。(敬称略)

◆**土地改良功勞表彰(知事表彰)**

◇鈴木順平(八郎瀧西部干拓地区土地改良区理事長) ◇柴田吉郎(平鹿町土地改良区事務局長) ◇高橋英夫(秋田県雄勝町土地改良区事務局長) ◇秋田県田沢疏水土地改良区(高貝久遠理事長) ◇秋田県南旭川水系土地改良区(藤井弘道理事長)

◆**土地改良事業功績者表彰(会長表彰)**

◇虻川久美(大館市南土地改良区副理事長) ◇

菅野洋(雄和土地改良区理事長) ◇嵯峨峰芳(秋田市農林部長) ◇齋藤實(にかほ市土地改良区管理責任者) ◇信田勇一(秋田県仙北平野土地改良区総括監事) ◇細川俊雄(仙北市黒倉堰土地改良区理事長) ◇高橋トシ子(秋田県仙北平野東部土地改良区事務長) ◇大坂久逸(秋田県南旭川水系土地改良区理事)

◆**感謝状贈呈**

農業農村整備事業の推進と発展及び本会の発展に貢献した個人・団体(183): 詳細別掲
 ◇土地改良区の理事長(19名) ◇土地改良区の職員(43名) ◇市町村の職員(13名) ◇秋田県土地改良事業団体職員会会長経験者(3名) ◇農業農村整備事業の推進と発展に貢献した団体(4団体) ◇本会の元役員及び現役員(14名) ◇本会の元囑託職員(2名) ◇県から派遣された元職員及び現職員(14名) ◇本会創立以来の功績者(3名) ◇本会の元職員及び現職員(41名) ◇本会の職員(22名) ◇本会の運営に対して功績が大きかった団体(4団体) ◇本会に対して貢献された方(1名)



●**来賓祝辞**

秋田県副知事 佐藤 文一 氏



●**乾杯**

秋田県議会副議長 安藤 豊 氏



●**来賓祝辞**

東北農政局次長 森 多可志 氏



●**祝賀会**

創立50周年記念式典

式 辞

会長 高 畑 進



本日の本会創立50周年記念式典に、ご来賓をはじめ関係皆様並びに会員皆様には、何かとご多用の中ご臨席賜り誠に有り難うございます。厚くお礼申し上げます。

本会は、昭和2年に設立された秋田県耕地協会の前身とし、昭和24年の土地改良法の制定に伴い社団法人秋田県土地改良協会に発展改組した後、昭和32年土地改良法の改正を受け、協会を解散し、翌33年9月20日に県内283団体による創立総会を開催し、同年11月11日に農林大臣の認可を受け今日に至っております。

この半世紀における農業情勢は、創立時の米の大増産の時代から、やがて米過剰による生産調整と他作物への転作の時代となり、更に昨今の改革の時代へと変貌の歴史を刻んできましたが、この間、土台となる生産基盤の整備と農村の生活環境の向上整備を担ってきた農業農村整備事業は、長期計画をはじめ各般に亘る施策の展開を通じ大きな役割を果たしてきましたし、本会もその推進に、独自の支援策を加えながら及ばずながらもお手伝いできましたことは、ひとえに国・県ご当局をはじめ県選出国會議員並びに県議會議員の皆様、そして会員皆様のご支援ご協力と、歴代役職員各位の英知とご努力の賜と深く感謝申し上げます。

お陰様で本県の農業基盤は格段に整備され、穀倉地帯に相応しい大規模なほ場が広がり、用排水路や農道の整備と相まって大型農業機械による近代農業の実現をみたほか、快適な生活環境整備も進められてきております。

こうした中、現下の農業農村を巡る情勢は、国際化の進展とともに、WTOにみられる急速な貿易自由化や地球温暖化への対応が求められているほか、世界の食料事情は、人口の急増や発展途上国などによる旺盛な食料需要、更にバイオ燃料への転換等により益々不足の状態が予測され、深刻な水不足とともに看過できない大きな問題として横たわっております。

このため食料の自給率が40%に満たない我が国としては、いかにして自給率の向上と食の安全・安心を高めていくべきか一層の工夫と努力が必要であります。中でも耕作放棄地など遊休農地の活用と、老朽化の時代を迎えた水利施設をはじめ生産基盤施設の適切な補修、更新に努めていかなければならないと存じます。

申しあげるまでもなく、農業・農村は、かねてより国民にとって欠くことのできない食料の安定供給のほか、水資源の涵養、自然環境の保全、文化の伝承など所謂多面的機能の発揮を通じ、国民生活を支える重要な役割を担ってきており、さらに、農地や農業用水は、本来の食料生産を支える役割のほか、地域共有の貴重な資産として、循環型社会の構築や、人と自然、都市と農村の共存などの新たな役割が期待されております。

私達は、今後こうした幅広い分野にわたる役割を担っていくわけですが、これまでの半世紀にわたる実績・経験を糧に、創立50周年と全国土地改良大会の開催を新たな出発点として、本県農業の偉大な先駆者石川理紀之助翁の理念を体し、先の全国土地改良大会のテーマとして掲げました「**あすを拓く大地、きらめく疏水、たくまじき郷**」秋田の実現を目指して、会員並びに関係機関の皆様方との連携を図りながら、更なる努力をしてまいり所存であります。

なお、本会創立50周年を記念し、本会並びに会員皆様の事業の歩みを振り返り、多くの先人皆様方の偉業を今一度思い起こすとともに、これからの前進の糧とするため記念誌を刊行いたしましたので、関係皆様のご高覧を頂き、本会に対する相変わらぬご理解ご支援をお願い申し上げ、開会のご挨拶といたします。

❖ 創立50周年記念 特別表彰（感謝状） ❖

❖ 土地改良区の理事長

◇安保富雄（かづの土地改良区）◇北林照助（森吉町土地改良区）◇三澤敏行（北秋田市綴子土地改良区）◇成田多市郎（能代市種土地改良区）◇安井操（山本郡市川堰土地改良区）◇伊藤礼二（山本郡藤里町藤琴土地改良区）◇武田隆一（峰浜土地改良区）◇田中長（琴丘土地改良区）◇石山金由（二ツ井町土地改良区（旧切石土地改良区））◇鈴木順平（八郎潟西部干拓地区土地改良区）◇菅野洋（雄和土地改良区）◇鈴木清（男鹿東部土地改良区）◇佐藤弘志（鳥海町笹子土地改良区）◇藤井宏一（仙北市田沢湖若松堰土地改良区）◇富岡弘（大仙市鶯野土地改良区）◇細川俊雄（仙北市黒倉堰土地改良区）◇仲村力夫（大仙市大曲土地改良区）◇加藤久孝（大仙市協和土地改良区）◇伊藤壽悦（横手市沼館土地改良区）

❖ 土地改良区の職員

◇原田政子（かづの土地改良区）◇北林正志（田代町土地改良区）◇佐藤朝子（大館市下川沿土地改良区）◇大山紀男（秋田県能代地区土地改良区）◇大高美弥子（二ツ井町富根土地改良区）◇関イホ子（三種町鶯川土地改良区）◇近藤和男（山本郡三種町下岩川土地改良区）◇安井教一（秋田県能代地区土地改良区）◇佐々木洋一（三種町鶯川土地改良区）◇能登正実（秋田県能代地区土地改良区）◇進藤八千代（河辺土地改良区）◇藤原博志（大潟土地改良区）◇川村涼子（大潟土地改良区）◇三浦等（大潟土地改良区）◇鈴木英弘（秋田市孫左衛門堰土地改良区）◇齋藤實（にかほ市土地改良区）◇田口美智子（由利本荘市子吉土地改良区）◇須田久（に

かほ市土地改良区）◇高橋幹矢（美郷町千畑土地改良区）◇武田孝雄（秋田県仙北平野土地改良区）◇高橋トシ子（秋田県仙北平野東部土地改良区）◇田口健了（秋田県仙北平野土地改良区）◇藤沢幸遠（秋田県田沢疏水土地改良区）◇斉藤耕助（大仙市神宮寺松倉堰土地改良区）◇加藤広隆（秋田県仙北平野土地改良区）◇照井富子（秋田県田沢疏水土地改良区）◇小林勇一（大仙市神宮寺松倉堰土地改良区）◇五十嵐新八（大仙市協和土地改良区）◇高橋幸子（秋田県仙北南部土地改良区）◇鈴木ノリ子（大仙市協和土地改良区）◇藤岡義博（秋田県七滝土地改良区）◇星宮文雄（秋田県仙北平野土地改良区）◇佐藤毅（秋田県仙北平野土地改良区）◇小杉豊房（平鹿町土地改良区）◇藤島恵子（十文字町土地改良区）◇佐藤喜一（十文字町土地改良区）◇高橋英夫（秋田県雄勝町土地改良区）◇高山陽二郎（湯沢市中央土地改良区）◇藤原アヤ（羽後町土地改良区）◇日野隆悦（稲川土地改良区）◇加藤満（稲川土地改良区）◇矢野二郎（羽後町土地改良区）◇阿部進（稲川土地改良区）

❖ 市町村の職員

◇櫻田進（大館市農林課 主幹）◇長谷部正美（秋田市農地森林整備課 副参事）◇牧野光寿（三種町 主幹(兼)総務課 課長）◇桧森雅臣（三種町建設課 課長）◇佐藤政孝（三種町参事）◇渡部専一（由利本荘市 政策監）◇鈴木一（由利本荘市大内総合支所産業課 課長）◇伊藤尚武（由利本荘市岩城総合支所産業課 課長）◇菊地 弘（由利本荘市西目総合支所建設課 課長）◇渡部昭（由利本荘市岩城総合支

所建設課 課長) ◇武藤隆二 (大仙市農林振興課 課長) ◇野中秀人 (仙北市産業観光部 部長) ◇千田幸咲 (横手市地域振興課 次長)

◆秋田県土地改良事業団体職員会会長経験者

◇高橋勝美 (前秋田県七滝土地改良区) ◇今野勇一 (前羽後町土地改良区) ◇高橋洋一 (前秋田県仙南土地改良区)

◆農業農村整備事業の推進と発展に貢献した団体

◇秋田県県土整備コンサルタント協会◇秋田県建設業協会◇秋田県土地改良専門技術者会◇秋田県土地改良事業団体職員会

◆本会の元役員及び現役員

◇工藤清一郎 (元副会長) ◇長谷川正 (元副会長) ◇前川盛太郎 (元副会長) ◇佐藤文雄 (元副会長) ◇村井佐太郎 (元副会長) ◇小林富義 (副会長) ◇高橋規男 (副会長) ◇古谷英雄 (副会長) ◇工藤久兵衛 (総括監事) ◇佐々木一 (元専務理事) ◇本庄健 (元専務理事) ◇澁谷公晟 (元専務理事) ◇佐藤洋一 (元専務理事) ◇三浦貞一 (専務理事)

◆本会の元嘱託職員

◇安東鉄治 (元調査役) ◇成澤典夫 (元調査役)

◆県から派遣された元職員及び現職員

◇藤田健一郎 (元派遣職員) ◇佐々木秀雄 (元派遣職員) ◇伊藤忠夫 (元派遣職員) ◇小野宏 (元派遣職員) ◇佐々木文吾 (元派遣職員) ◇藤田正久 (元派遣職員) ◇佐々木捷三 (元派遣職員) ◇福田正實 (土地連 管理情報部 専門員) ◇黒子高夫 (平鹿地域振興局 局長) ◇佐藤源太郎 (出納局検査課調整・検査第一班 上席主幹(兼)班長) ◇柳原守 (鹿角地域振興局農林部 部長) ◇今井浩二 (元派遣職員) ◇松橋

久光 (農林水産部農地整備課調整・企画班 主幹(兼)班長) ◇藤原隆則 (土地連 環境整備部 部長)

◆本会創立以来の功績者

◇武田二郎 (元総務部 部長) ◇川村清一 (元参事) ◇伊庭 寛 (元管理指導部 部長)

◆本会の元職員及び現職員

◇成田茂◇金子重治◇後藤至◇菅原今朝治◇鎌田司◇金沢完一◇長谷山敏雄◇麻木紘子◇信太祥熙◇芋田宏◇杉山隆◇櫻田文昭◇佐藤正七◇原田洋之進◇土田盛◇茂木貞彦◇金森暉◇斎藤義勝◇秋元正美◇佐藤久治◇板垣嘉一◇大友藤夫◇柿崎好美◇熊谷敬一◇齊藤勉◇小笠原貢◇尾張谷憲男◇白川由二◇安田又幸◇村木弘之◇藤嶋實◇坂本公悦◇桜井博義◇秋林覚◇藤田昭男◇菅原悦晴◇高橋豊治◇斎藤秀夫◇藤田則雄◇小林克雄◇成田重文

◆本会の職員

◇水戸憲光◇池田与嗣広◇加澤隆昌◇猿田春一◇三浦良次◇黒崎武男◇畠山政勝◇鈴木一秋◇小石信一◇戸沢正巳◇高野孝行◇金森正広◇渡部敏行◇高橋良三◇堀井股次◇照井聡◇猪俣公◇鈴木輝秋◇三浦寛経◇長崎強◇久住隆雄◇津谷和弘

◆本会の運営に対し功績が大きかった団体

◇株式会社東北ビルカンリ・システムズ◇むつみ造園土木株式会社◇秋田県畜産農業協同組合◇秋田県社会福祉協議会

◆本会に対し貢献された方

◇山入慧子 (職場環境の美化に貢献)

平成20年度土地改良関係団体役職員講習会を各地で開催

平成20年度土地改良関係団体役職員講習会が、11月13日の仙北支部（職員）を皮切りに9会場で開催された。同講習会は土地改良区役職員の資質向上、土地改良関係者への最新情報の提供を目的に実施され、延べ776名の関係者が参加し、盛会に終了した。

講習会のメインテーマは「土地改良区未収賦課金の解消について」で、県内土地改良区に対する未収賦課金に関するアンケート集計結果と今後の対応等について、秋田県農林水産部農地整備課の担当者より講義が行われた。土地改良区の役職員にとっては切実な課題であり、各会場では未収賦課金に関する質問や意見が多く出されていた。

また、21創造運動の更なる拡大・浸透を図ろうと「21創造運動ディスカッション」をプログラムに組み入れた。県内各地で21創造運動を実践している土地改良区役職員による事例発表と、発表者と管内土地改良区役職員がパネラーとなったパネルディスカッションを行い、運動への取組のきっかけや取組後の成果、課題などについて意見を交わした。県内では、まだ全体の2～3割の土地改良区しか外部運動（実践活動）に取り組んでおらず、参加者は運動への取組のきっかけにしようと、ディスカッションを熱心に聴き入っていた。

なお、今年度の開催状況は次のとおり。



▲鹿角、大館・北秋田支部



▲雄勝支部

日程及び開催内容

- 仙北支部（職員） 11月13日～14日：「ホテル森の風鶯宿」 出席者69人
 - ・「土地改良施区未収金賦課金の解消」について／県農林水産部農地整備課 高橋主幹（兼）班長
 - ・21創造運動事例発表／水土里ネット湯沢中央 高橋工務維持管理課長
 - ・中山間ふるさと・水と土事業の活動紹介／県農林水産部農山村振興課 高橋技師
 - ・「市町による農地・水・環境保全向上対策」の取組について／仙北地区農業農村整備推進協議会 大沢会長
- 山本支部（役職員） 11月17日：「シャインプラザ平安閣能代」 出席者139人
 - ・「土地改良施区未収金賦課金の解消」について／県農林水産部農地整備課 高橋主幹（兼）班長
 - ・21創造運動事例発表／水土里ネット一ノ目潟 戸嶋理事長
 - ・21創造運動ディスカッション

■鹿角、大館・北秋田支部（役職員） 11月18日～19日：「ホテル鹿角」 出席者84人

- ・「土地改良施区未収金賦課金の解消」について／県農林水産部農地整備課 高橋主幹（兼）班長
- ・21創造運動事例発表／水土里ネット市川堰 安井理事長
- ・21創造運動ディスカッション
- ・「新たな主体形成による広域的農村振興」について／県北秋田地域振興局農林部 高谷次長

■雄勝支部（役職員） 11月20日：「湯沢グランドホテル」 出席者98人

- ・「土地改良施区未収金賦課金の解消」について／県農林水産部農地整備課 田村主査
- ・「土地改良区未収金賦課金対策」について／水土里ネット七滝 藤岡事務長
- ・「これからの農村整備について」／秋田県立大学生物資源学部生物環境科学科 谷口教授

■平鹿支部（役職員） 11月21日：「横手セントラルホテル」 出席者119人

- ・「土地改良施区未収金賦課金の解消」について／県農林水産部農地整備課 小林副主幹
- ・21創造運動事例発表／水土里ネット浜口 畠山事務局長
- ・事例発表者を交えての質疑応答及び意見交換会

■由利支部（役職員） 11月25日～26日：「ホテルフォレスト鳥海」 出席者66人

- ・「土地改良施区未収金賦課金の解消」について／県農林水産部農地整備課 磐田技師
- ・21創造運動事例発表／水土里ネット仁井田堰 伊藤事務局長
- ・21創造運動ディスカッション
- ・地域農業水利施設ストックマネジメント事業／水土里ネット秋田環境整備部 三浦技術長

■仙北支部（役員） 11月27日～28日：「ホテル森の風鶯宿」 出席者83人

- ・「土地改良施区未収金賦課金の解消」について／県農林水産部農地整備課 田村主査
- ・「消費地における流通・販売の状況」について／全農パールライス東日本（株）執行役員営業企画部 田中本部長
- ・「美しい秋田の環境創造」について／県生活環境文化部 川村参事

■秋田支部（役員） 12月2日～3日：「秋田温泉さとみ」 出席者86人

- ・「土地改良施区未収金賦課金の解消」について／県農林水産部農地整備課 最上主事
- ・21創造運動事例発表／水土里ネット山田五ヶ村堰 倉田事務局長
- ・21創造運動ディスカッション

■秋田支部（職員） 12月4日～5日：「秋田温泉プラザ」 出席者32人

- ・「土地改良施区未収金賦課金の解消」について／県農林水産部農地整備課 小林副主幹
- ・21創造運動事例発表／水土里ネット稲川 阿部施設管理課長
- ・21創造運動ディスカッション
- ・DVD放映／第31回全国土地改良大会秋田大会（ダイジェスト版、歓迎アトラクション）

（延べ出席者776人）

平成20年度 21創造運動全国セミナー

大賞受賞地区が事例発表とパネルディスカッションを行う!!

■水土里ネット綴子（北秋田市）が「さなえ賞」を受賞



12月10～11日の2日間、全国水土里ネット主催の「平成20年度21世紀土地改良区創造運動全国セミナー」が開催され全国の関係者約140名が参加した。全国セミナーは、21創造運動大賞を受賞した水土里ネットの取り組みを参考に情報提供や意見交換等を行い、今後の運動展開や更なる運動の拡大・浸透を図ることを目的に毎年開催されており、今年度は大賞受賞の7水土里ネットによる事例発表及びパネルディスカッションなどが行われた。



セミナーは、事例発表に先立ち基調講演が行われ、瀧川拓哉氏（農林水産省整備部農地資源課農地政策検討室専門官）が「耕作放棄地対策

の推進について」、阿武隆弘氏（全国水土里ネット企画研究部長）が「持続可能な国土とは」の演題で講演を行い、それぞれ同対策の取組状況や演題に当てはめた持論などについて話された。

事例発表では、今年度の大賞受賞の7水土里ネットが受賞の対象となった活動事例を紹介。いずれも、堂々としたプレゼンで、内容的にも他の水土里ネットと違った部分を強調し、取組状況の創意工夫がわかり、参考になる部分も多く見られた。

2日目のパネルディスカッションには、7水土里ネットの発表者がパネリストとして登場し、①子ども達との連携、②多面的機能の啓発、③地域づくりへの貢献をテーマに意見が交わされた。様々な意見が出され、参加者は今後の運動の展開方向について参考にしようとメモをとる姿が見受けられた。

また、今年度の「さなえ賞」（運動を始めて2年以内で、今後の展開が期待できる地区を各都道府県毎に1地区を表彰）の表彰式も行われ、本県からは水土里ネット綴子の三澤理事長が、全国水土里ネットの寺尾土地改良研究所長から賞状を受け取った。

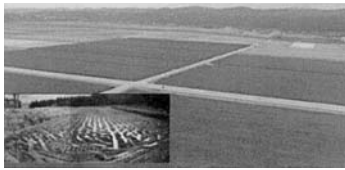


平成21年度農業農村整備関連予算概算要求の重点事項

1 国際的な食料事情を踏まえた食料供給基盤の強化

■食料自給率向上に向けた基盤整備の推進

- 大区画化・汎用化と耕地利用率の向上を前提とした面的集積の一体的推進
- 新規需要米生産製造連携関連施設の整備
- 実需者との連携による野菜産地の整備促進



整備前 整備後

■担い手の育成と農地の有効利用

- 農地情報のデータベース化推進と運用体制の構築
- 基幹水利施設の整備と一体的な農地利用集積の促進
- 農地集積に取り組む地域における負担金償還支援の充実



■耕作放棄地解消に向けた取組の推進

- 耕作放棄地の再生利用対策の強化・推進



整備前 整備後

■農業用水の安定的供給の確保

- 地域農業水利施設へのストックマネジメントの導入
- 国営造成施設の更新円滑化のための事前積立の推進

2 地域資源の活用によるいきいきとした地域づくりの推進

■安全で安心して暮らせる農村づくり

- 国営造成土地改良施設の防災情報ネットワークの構築
- 防災・減災を中心に利活用にも資する地域ため池総合整備の推進

■農村協働力を活かした資源や環境の保全の取組の推進

- 農地・水・環境保全向上対策の推進

3 農山漁村からの低炭素社会の構築と地球環境問題への対応

■農山漁村地域における低炭素社会の実現

- 低炭素むらづくりの推進
- 小水力発電施設整備の促進
- 基盤整備による農地への炭素貯留手法の確立

■バイオマス利活用の推進

- 国産バイオ燃料の大幅な生産拡大とバイオマス利活用の促進

■生物多様性の保全

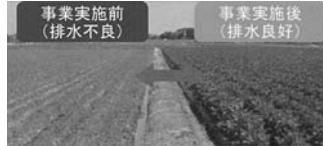
- 重要な地域における環境保全活動や保全に必要な基盤整備の促進

◆国際的な食料事情を踏まえた食料供給基盤の強化(主な要求内容)

食料自給率向上に向けた取組の推進

- 農地有効活用緊急基盤整備事業【公共】～新規～ 2,000(0)百万円
- 農地有効活用緊急支援【非公共】(プロジェクト交付金の拡充) 100(0)百万円

・農業生産基盤の整備と、耕地利用率の向上を前提とした担い手への農地利用の面的集積を促進するための関連支援策を一体的に実施。



大豆の生産には、排水条件の改良が不可欠



- 新規需要米生産製造連携関連施設整備事業【非公共】(プロジェクト交付金の拡充) 4,030(0)百万円

・生産・流通・加工・販売の各関係者の連携による確実な流通・消費を前提に、新規需要米の低コスト化に必要な機械・施設等の一体的な整備を支援。



- 産地振興追加補完整備【非公共】(プロジェクト交付金の拡充) 500(0)百万円
- 戦略的産地振興支援事業【非公共】～拡充～ 300(200)百万円

・実需者と連携して国産農産物の供給を強化する産地において、弾力的・機動的な基盤整備や野菜等の機械・施設の整備等を支援。



担い手の育成と農地の有効利用

- 水土里情報利活用促進事業【非公共】～拡充～ 10,699(9,699)百万円

・農地情報のデータベース化(農地情報図の整備)とこれによる面的集積等への活用を推進するため、地図の整備の推進、データベースの運用体制の構築を支援。



- 水利区域内農地集積促進整備事業【公共】～新規～ 300(0)百万円

・基幹水利施設の整備と一体的に、末端の農業水利施設等の整備を実施し、担い手への農地集積を促進。



- 経営安定対策基盤整備緊急支援事業【非公共】～新規～ 2,100(ー)百万円

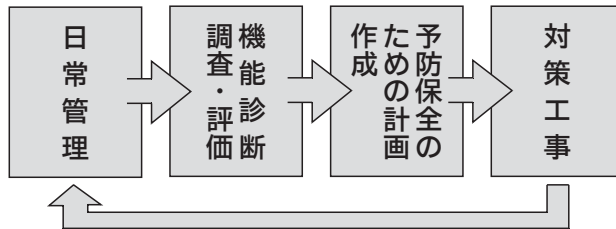
・担い手への農地利用集積や面的集積に取り組む地域において、土地改良事業等の負担金償還を支援。

農業水利施設の整備・更新

■地域農業水利施設ストックマネジメント事業【公共】 ～新規～ 2,000(0)百万円

・広域にわたる地域農業水利施設の機能を診断し、診断結果に応じた機能保全対策を実施。

ストックマネジメントの仕組み



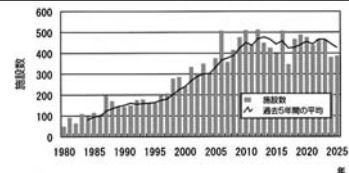
機能診断



対策工事の実施

■国営造成施設等保全・更新円滑化対策事業 ～事前積立の全国的な促進～【非公共】 ～新規～ 250(一)百万円

・更新のための事前積立の全国的な啓発普及と個別地区での積立を促進。



注1：基幹的農業水利施設とは、受益面積100ha以上のダム、灌漑工、用排水機場、水防等の施設
注2：上記は、土地改良事業の経費効果算定に用いる標準耐用年数を用い、耐用年数に達したものは更新されるものとして作成
資料：「農業基盤整備基礎調査」（平成18年3月時点）

耕作放棄地解消対策

■平成20年度 耕作放棄地の全体調査と解消計画の策定

全体調査により、農業利用ができる土地と農業利用ができない土地に区分し、市町村毎に解消計画を策定



再生活動



利用再開



■平成21年度～ 耕作放棄地解消対策の強化・推進

●緊急的な耕作放棄地解消のための総合的・包括的支援

【耕作放棄地等再生利用緊急対策交付金(新規230億円)】

- ①再生利用活動 ・障害物除去、深耕等荒廃の程度に応じ3万円/10a又は5万円/10a(取組初年度のみ)
・土壌改良等2.5万円/10a(営農開始までの間で最大2年間)
- ②施設等補完整備(用排水施設、鳥獣被害防止施設、直売所・加工施設等)
- ③営農定着活動(水田等有効活用促進交付金の対象作物を除く。)
・資機材等の初期投資、導入作物の適性確認等
2.5万円/10a(営農開始以降の最大2年間)

●農業生産基盤の整備による耕作放棄地解消の支援

【耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業(拡充)11億円】
【農地環境整備事業(拡充)14億円】

主要な施策連携

●水田等の有効活用による戦略作物の生産拡大に対する支援 (水田等有効活用交付金等)

- ・転作の拡大部分、調整水田等不作付地への作付拡大に対して助成
米粉・飼料用米等→5万円/10a 麦、大豆、飼料作物→3.5万円/10a
(配分総額の範囲内で地域で単価調整可)

(水田裏作、畑不作付地への作付拡大は1.5万円/10a(助成期間3年、1年))

- ・(水田・畑作経営所得安定対策の対象者)
上記に加え、麦、大豆には経営所得安定対策相当額を助成予定

平成20年度 秋田県農業集落排水連絡協議会研修会

共催／秋田県農村総合整備センター

11月20～21日、湯沢市と羽後町に於いて「平成20年度秋田県農業集落排水協議会研修会(共催 秋田県農村総合整備センター)」が開催され、全県から県、市町村、県土連の職員35名が参加した。

開会挨拶

◇三浦貞一 水土里ネット秋田専務理事

「農業・農村を取り巻く状況及び秋田県の農業集落排水事業の現状や今後の見通し等」を要旨に挨拶した。

■11月20日【研修内容】

①「我が国の食料需給の現状と課題」 ◇東北農政局整備部地域整備課長 赤倉正弘

今年は「中国餃子事件」に端を発し、「事故米の食用転用事件」、「食品の偽装表示」など、食に関わる多くの事件が今なお発生している。食の安全安心や食料自給率、食育など、食に関して人々の関心が高まっていることから、今回の研修テーマとし、赤倉課長に講師をお願いした。



▲東北農政局赤倉課長

②「コンクリート構造物の維持管理(損傷事例にもとづく点検のポイント)」

◇水土里ネット秋田環境整備部集落排水班副主幹 加藤俊逸

③「農業集落排水(機能強化(改築)技術)」

◇水土里ネット秋田環境整備部集落排水班主査 鈴木幸治

④「湯沢市皆瀬の地域おこしの事例について」

◇湯沢市皆瀬総合支所地域企画課主査 沼倉 誠

米依存から脱却するために中山間地の自治体の担当者として取り組んだ水田転作対策や地域振興対策事業の経験を踏まえて、成果が上がった事例や思うようにいかなかった事例などを取り混ぜながら講演された。



▲研修状況

そして、これからの地域づくりは「その地域に合ったスタイルで地域の住民が主体となって地域のみんで取り組むこと」が必要であると結ばれた。

⑤「農業用水利施設ストックマネジメント事例」について

◇秋田県雄勝地域振興局農林部農村整備課 ふる里づくり推進班主幹(兼)班長 大木 寛

意見交換会・地元歓迎挨拶

◇湯沢市下水道課 阿部課長

当地「小安温泉」及びこの周辺は今年の6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震で大変大きな被害を受けた。地震のダメージは大きく、特に岩手県や宮城県から入ってくる道路が壊滅状態となり未だ遮断されたままである。今後、いつ頃までに復旧されるかの見通しも立たない状況であることから、我々を始め関係者は大きなショックを受けている。このように取り巻く環境が非常に厳しい中で、本研修会が当地で開催されることは地元にとって大変力強い激励となっており心から感謝申し上げたい。この機会に多くの方々と情報交換され、今後の業務のプラスになるように御祈念申し上げたい。

■11月21日【現地研修】 「土館地区農業集落排水処理場(羽後町)」

◇羽後町建設課 ◇水土里ネット秋田環境整備部・管理情報部

農業集落排水処理場の動力制御盤の点検手法やモーターの維持管理等について、土地連管理情報部施設管理班 阿部専門員、佐々木専門員の指導の下、聴芯棒や温度測定器、振動測定器を使用した点検方法や触手による温度測定等について実地体験も組み入れた研修を行った。



▲聴芯棒による聴診

【おわりに】

当日は、研修会場の小安温泉が40～50cmの積雪になる今年初めての本格的な雪にも関わらず全県から多くの方に参加を頂き、また、研修会開催にあたっては県雄勝地域振興局、湯沢市、羽後町の皆様に多大な御協力を頂きました。併せてお礼申し上げるとともに、6月の地震災害で被害に遭われた皆様の一日も早い復興を御祈念申し上げ結びとします。



▲測定器による温度測定

技術向上に向けての 取り組み

業務成果発表会・内部研修

■平成20年度第2回業務成果発表会で成果説明力向上研鑽

今年度2回目となる業務成果発表会が7月に引き続き10月30日(木)に実施した。

環境整備部が内部研修として継続的に行っているもので、今回は「農道の設計について」と「農業集落排水事業について」それぞれ2名の職員が発表した。

その後、内容がどうであったか、分かりやすかったかなどの質疑が行われ、「目的が分かりにくい、説明者の資料ではないか、聞く者へ分かりやすく伝わるように作るべきだ」など、厳しい評価がなされ、聞く側として多くの建設的な意見が出され有意義に終え、成果品の説明・表現力の改善につながる研修となった。



■平成20年度第2回内部研修 (技術力向上研修)

今年度2回目となる技術力向上研修が、5月に引き続き12月1日(月)に実施した。農村振興技術連盟会員を対象に午前と午後にそれぞれ25名程ずつ業務に支障をきたさないように行われ、開講にあたり資格取得が急務である現実を踏まえ「資格取得に向けた取り組み」と題して、総務企画部長が受託環境の変化や資格取得年次計画などについて講義し、本会の受託収入を維持できるか、今後の資格取得が鍵となるとして「年代に応じた資格取得に向かってほしい」と述べた。



続いて、9月に農村工学研修所で2週間の土木地質専門技術研修を終えてきた職員から技術の共有を目的に講義が行われた他、環境に配慮したほ場整備における生態系保全の取り組みについての発表が行われた。

こうした内部研修を通じて職員の技術力・発表力向上に日々研鑽していることの効果が会員への支援につながるものとして期待されます。

各種研修会・会議の開催

■農業農村整備の集い：11月18日（東京都）

全国水土里ネット主催の「農業農村整備の集い」が開催され、全国各地の土地改良関係者や国会議員など約700名が参集。第1部が「ため池のある風景」写真コンテスト表彰式、第2部では長編アニメーション映画「パッテンライ！」の特別試写が行われた。第3部の大会では、野中広務全国水土里ネット会長の挨拶に続いて、特別決議が提案され、満場一致で決議された。また、石破茂農林水産大臣の来賓祝辞、仲條康朗農村振興局長からの情勢報告があったのち、協議に入り、意見発表や佐藤昭郎参議院議員による提言のほか、6項目からなる平成21年度予算確保に向けた決議を採択した。

■第31回全国土地改良大会秋田大会・第4回運営委員会：12月18日（秋田市）

秋田大会の第4回運営委員会を開催。10月に開催された第31回全国土地改良大会の大会参加実績や大会決算報告、大会スタッフ及び併催行事出展団体の参加実績、県内経済波及効果実績などが報告された。また、次期開催県である島根県への事務引継ぎまでの今後のスケジュール等について確認した。

■平成20年度換地処分実務研修：12月19日（秋田市）

換地処分事務に従事している土地改良換地士、その他換地処分従事者及び換地計画実施（予定）地区の担当者や役員、委員等を対象に、換地処分事務の促進を図るための研修会を開催。実務担当者や関係者など約120名が参加した。東北農政局や秋田南税務署、秋田県農林水産部から講師を招き、換地処分実務に関する講習を受けたほか、新城川土地改良区の安田理事長及び大仙市神岡総合支所農林振興課の石山主幹が事例発表を行った。

連合会日誌

10月28日	六郷西部地区経営体育成基盤整備事業竣工式典、祝賀会並びに記念碑除幕式	美郷町
10月28日	東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会平成20年度第2回事務主任者会議	仙台市
11月5日	豊川地区経営体育成基盤整備事業除幕式、竣工式並びに祝賀会	大仙市
11月7日	本会第5回及び第6回監事会	本会「第1会議室」
11月12日	「田沢二期地区」地域用水対策協議会設立準備会	大仙市
11月14日	全国土地改良施設管理事業推進協議会第12回通常総会	東京都
11月17日	平成20年度第2回水土里事業担当者会議	東京都
11月26日	大館・北秋田支部平成20年度政策提言活動（～28日）	東北農政局・国会議員会館
11月27日	東北・北海道農業農村整備事業に関する要請活動	東京都「農林水産省」
11月29日	2008東北こどもサミットin仙台	仙台市
12月4日	平成20年度農業農村整備事業品質確保支援研修会（～5日）	仙台市
12月15日	水土里ネット秋田・山本支部政策提言活動（～16日）	仙台市「東北農政局」
12月15日	本会132条検査（～17日）	本会「第1会議室」
12月18日	本会第7回監事会及び第3回理事会	本会「第1会議室」
12月19日	「田沢二期地区」地域用水対策協議会設立総会	大仙市
12月19日	平成20年度換地処分実務研修	秋田市
12月22日	秋田県米政策推進協議会	秋田市

今後の行事予定

1月14日	平成20年度農業集落排水担当者全国研修会（～15日）	東京都
1月27日	平成21年度土地改良施設維持管理適正化事業等実施計画打合せ	東京都
1月29日	平成20年度換地計画推進全国会議	東京都

水土里ネット秋田の動向

— 活動報告 —

【平成20年度中間監査】

11月7日、本会第1会議室で平成20年度中間監査を実施。会計諸帳簿及び予算執行などは適正と認められる。

【平成20年度永年勤続功労者表彰】

11月11日、本会職員として事業推進に尽した功労者を表彰する永年勤続功労者表彰式が、本会第1会議室で行われた。表彰を受けた職員は次のとおり。



〔勤続30年表彰〕

◇三浦寛経(農地整備部) ◇猪俣公(環境整備部)
◇津谷和弘(農地整備部) ◇佐藤求(農地整備部)

【東北・北海道農業農村整備事業に関する要請活動並びに意見交換】

11月27日、東北・北海道土地連絡協議会が農林水産省農村振興局に対し、農業農村整備事業に関



する要請活動並びに意見交換を実施。本会から高畑会長、三浦専務理事、池田総務企画部長が出席。

【第3回会長・副会長会議】

12月10日、本会役員室で開催。第3回理事会の議案などを協議。

【ISO9001：再認証審査】

12月10～12日、本会会議室などを会場にISO9001の再認証審査が実施された。登録審査機関となっているMSA(株式会社マネジメントシステム評価センター)の審査員2名が来会し、対象業務について担当職員が審査を受けた。

【本会・132条検査】

12月15～17日、本会で土地改良法第132条検査が実施された。東北農政局の担当者2名が来会し、業務状況並びに会計処理に関する検査を受けた。

【第7回監事会・第3回理事会】

12月18日、第7回監事会並びに第3回理事会を開催。平成20年度一般会計補正予算を審議。また、業務報告として平成21年度職員採用、創立50周年記念式典の決算状況、東北・北海道連絡協議会の要請活動状況などが報告された。

会員だより

理事長就任のお知らせ

○秋田県能代地区土地改良区は、11月8日付けで理事長が下記のとおり就任されました。

理事長 鷲尾 弘

○峰浜土地改良区は、12月3日付けで理事長が下記のとおり就任されました。

理事長 武内 浩

新土地改良区の設立について

【二ツ井町土地改良区】

2月19日に合併予備契約を締結していた能代市(旧二ツ井町)の4土地改良区(二ツ井町小繫、山本郡二ツ井町切石、荷上場、下田平)が、新たに「二ツ井町土地改良区」として11月10日にスタートしました。新土地改良区は、受益面積303ha、組合員424人。

○新土地改良区

- ・名称 二ツ井町土地改良区
- ・代表者 理事長 石山 金由
- ・住所 能代市二ツ井町切石字山根73
- ・電話 0185-73-3554

(旧山本郡二ツ井町切石土地改良区事務所)

○合併により解散した土地改良区

- ・二ツ井町小繫土地改良区
- ・山本郡二ツ井町切石土地改良区
- ・荷上場土地改良区
- ・下田平土地改良区

農業農村整備フェアで 農業・農村の役割をPR!

第131回秋田県種苗交換会の協賛行事として開催!

農業農村整備事業の啓発普及や農業・農村の多面的機能などを広く一般にPRしようと毎年開催している「農業農村整備フェア」が、10月30日～11月5日まで、今年の種苗交換会の開催地である“にかほ市（旧象潟中学校校舎）”で行われ、多くの来展者で賑わった。

フェアは、水土里ネット秋田のほか、東北農政局（西奥羽土地改良調査管理事務所、平鹿平野農業水利事業所）と秋田県の共催で、毎年人気の縄ないの実演・体験を行う「ふれあい体験コーナー」、写真入りカレンダーの作成、湧水や用水路に生息するイバラトミヨの水槽展示、各団体が取り組んでいる「農業農村整備」に関するパネル紹介などを行った。

来展者は、サービスのポップコーンを手にしながら、パネルや水槽の前で立ち止まりながら真剣に見入っていた。また、縄ないの体験コーナーでは、小学生からお年寄りまで、指導者から手ほどきを受けながら、楽しそうに縄ないに興じている姿が見受けられた。中には、2時間近くかけて「わらじ」を編み込んだ人もいた。

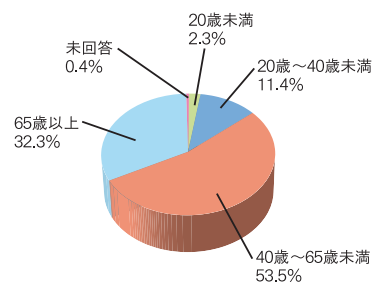
水土里ネット秋田では、写真コンクールの作品展や昨年度から取り組んでいる「農地・水・環境保全向上対策」の各地域での取り組み紹介、「農業用水水源地域保全対策事業」をPRしたジオラマ（模型）などの展示物を出展したほか、土地改良相談コーナーの開設やアンケートを行い、来展者の生の声を聞きながら、水土里ネット秋田の役割や農業・農村に対する理解を深めてもらうためのPRに努めた。



なお、期間中に来展者に実施したアンケートの集計結果は次のとおり。

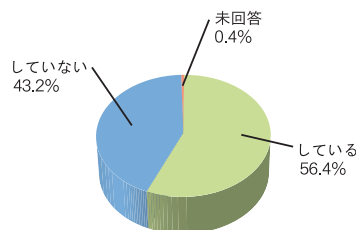
アンケート結果

Q1：年齢は？



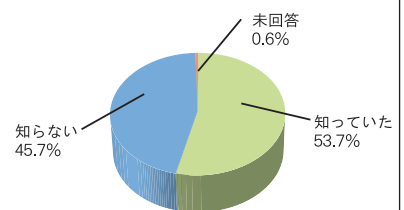
回答者数：903人

Q2：農業に関する仕事をしていますか？



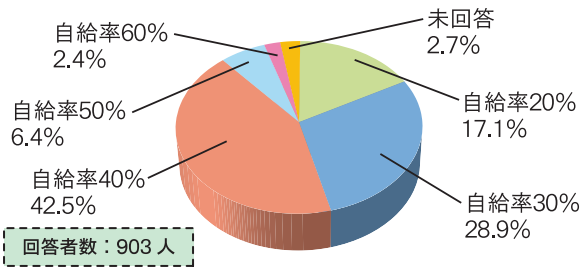
回答者数：903人

Q3：「水土里ネット」という土地改良区の愛称を知っていましたか？



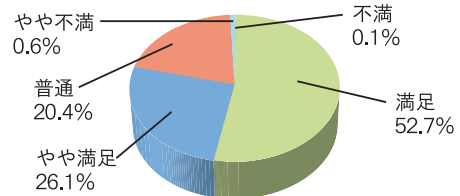
回答者数：903人

Q4 : 日本の食料自給率が何%だと思いますか？

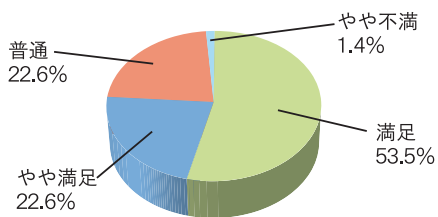


Q5 : この「農業農村整備フェア」の各コーナーの満足度についてお聞かせください。

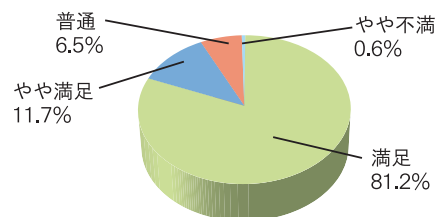
【パネル・模型・水槽などの展示物】



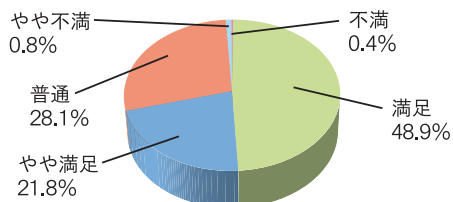
【ふれあい体験(縄ない)】



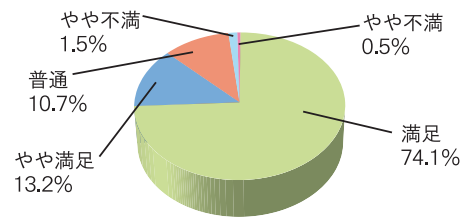
【カレンダー作成】



【土地改良相談・アンケート】



【ポップコーン】



◆平成20年秋の勲章(関係受章者)◆

平成20年秋の叙勲の受章者が11月3日に発表されました。対象者は、教育や福祉、地方自治、消防などの分野で長年にわたり社会貢献してきた方々です。本会の会員からも土地改良事業の功績が認められ次の方が受章されました。おめでとうございます。

◆旭日単光章(土地改良事業功労)



齊藤 保雄

- ・元秋田県土地改良事業団体連合会理事
- ・元羽後町土地改良区理事長

12月、野に咲く花

雪をかぶる柿



「モガれない柿はひと昔より多く見られる」食する人も採る人も少なくなった畑
(大仙市西仙北の畑)

支部からの
水土里通信
由利支部

農村環境向上対策による学校教育と連携した農業体験学習

水土里レポーター：水土里ネットにかほ（にかほ市土地改良区）事務局長／須田 久

平成18年度まで21土地改良区創造運動の一環として取り組んできた「小学校の農業体験学習」も平成19年度より地域の農地・水・環境保全向上活動組織に引き継がれ、本年度も農村環境向上対策の事業として学校教育と連携した活動が実施された。



5月22日の田植え作業は、地元小学5年生と地区活動組織会員で伝統的田植え作業と農業生産に欠かすことができない水利用についても勉強をして、作業の体験感想と秋の収穫を期待しながら終了した。



今年は、稲作も順調に進み当学校田も10月7日に稲刈り作業を向かえ、春に田植えを行った小学生と地域住民の協力による稲刈り作業を体験して秋の収穫を喜びあった。

地区活動組織会員からは、「初めて農作

業を体験する生徒がほとんどなので、農業を少しでも伝えていく必要がある」といった声が聞かれた。



この活動状況は、市の広報にも紹介され、また水土里ネット秋田主催の「第11回美しく豊かな農村づくり写真コンクール」で県知事賞にも選ばれ、巾広く市民に情報等を提供しております。



また、12月には生徒から「体験感想文」が地区活動組織に届くことになっており、特に地区の高齢者の方は楽しみにしているとのお話しでした。

今後も、地区活動組織及び水土里ネットにかほ、関係諸団体等が連携しながら継続していくことを期待しております。

INFORMATION

Webサイト(ホームページ)の掲載

■「第31回全国土地改良大会秋田大会」の開催報告(本会HP)

去る10月14日～16日に開催された「第31回全国土地改良大会秋田大会」では、多くの方々から大会の参加並びに開催運営にご協力いただきましてありがとうございました。

大会式典や事業視察の様子を開催報告という形で、水土里ネット秋田のHP内(全国大会のサイト)に掲載しておりますので、皆さんもご覧ください。

●水土里ネット秋田・ホームページ <http://homepage2.nifty.com/akidoren/>

年末年始の休業について

本会の年末年始の業務は次の通りとなりますので、お知らせいたします。

- 12月26日(金) 仕事納め(通常業務)
- 12月27日(土)～1月4日(日) 年末年始休業(本部・各事務所は閉館となります)
- 1月5日(月) 仕事始め(通常業務)

編 集 後 記

- ◆今年も全国水土里ネット主催の21創造運動全国セミナーが開催された。今年度の21創造運動大賞を受賞した7水土里ネットから事例発表とパネラーとして意見を交わすパネルディスカッションがあった。受賞地区は、職員24名で受益面積約3万haのところや職員1名で受益面積15haなど、水土里ネットの規模の大小に関わらず地域と連携した意欲的な運動が評価された結果だと思う。県内では、今年度の土地改良関係団体役員講習会が先日終了したが、この中で21創造運動をテーマに事例発表やディスカッションが実施された。発表者やパネラーとして意見を述べた各水土里ネット役職員のヤル気(熱意)は、今後の運動推進の参考になったことと思います。21創造運動の積極的な活動を契機に、県内各地で水土里ネットが地域に頼られる水土里ネット、地域に必要な組織となることを期待しています。
- ◆先日、京都の清水寺で1年の世相を表す今年の漢字は「変」と発表された。発表は今年で14回目。日本漢字能力検定協会の公募で、全国から過去最多の11万1,208通の応募があり、変は全体の5%にあたる6,031票を獲得した。確かに、今年はオバマ氏の変革を訴えて次期アメリカ大統領に選ばれたり、世界経済の大変動が起きたり、自分の周りで予測できない変化が加速的におきていると感じているのは私だけだろうか。振り返ると、今年は全国土地改良大会、創立50周年と慌ただしい一年で、なかなか自分自身を振り返る時間もなかったように思う。今年もいよいよ残すところ1週間余りとなったが、自分自身もこの「秋田の土地改良」も時代に合った形で変わっていくことが大切だと思う。2009年はどんな一年になるか予測できないが、明るく楽しい年になることを願っています。来年も秋田の土地改良をよろしく願います。(広報・渉外班◇嵯峨記)